

事業の概況

■ 経営環境等

我々 J Aバンクを取り巻く環境は、人口減少・高齢化などの構造的な問題による事業基盤への影響や国内における低金利環境の継続等による資金収支の減少に加え、ウクライナ情勢や円安進行に伴う燃料・原材料価格等の高騰が農業経営に多大な影響を及ぼすなど、極めて厳しい状況にあります。

こうした情勢のもと、令和4年度は、中期経営計画（令和4年度～令和6年度）の初年度として、基本戦略に掲げる「安定的収益還元機能の強化」、「J Aバンクえひめ本部機能の強化」の主要施策に取り組みました。

「安定的収益還元機能の強化」については、有価証券の計画的な投資に取り組むとともに、地場企業および農業関連法人などへの新規開拓による貸出残高維持に取り組みました。

「J Aバンクえひめ本部機能の強化」では、「農業の夢・ヒアリング訪問」の実施やウクライナ情勢に伴う原油価格・農業資材等の物価高騰の影響を受けた農業者等に対して、「J Aバンクえひめ原油・原材料等価格高騰対策資金」等により円滑な資金融通に努めるとともに、「取引ランクアップ運動」や次世代との取引拡大に向けた各種キャンペーンの実施、提案型セールスへの実践に取り組みました。

また、地域貢献活動としては、愛媛県と連携し、愛媛県が子どもや子育て世代の支援のために創設した「子どもの愛顔応援ファンド」に愛媛県産米と寄附金を寄贈し、寄贈米を活用した子ども食堂への支援活動を続けております。

以上のような取り組みの結果、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回る実績を収めることができました。

■ 業績

令和5年3月末の県内 J A貯金残高は、前年対比136億円減少し2兆497億円となりました。

J A貸出金残高は、前年対比135億円増加し3,717億円となりました。

当会の資金調達では、令和5年3月末貯金残高は、前年対比454億円減少し1兆6,293億円となり、令和4年度期中平均残高は、前年対比318億円減少し1兆6,460億円となりました。

一方、資金運用では、預け金残高は、前年対比579億円減少し9,230億円となり、期中平均残高は、前年対比747億円減少し9,493億円となりました。

貸出金残高は、前年対比32億円増加し967億円となり、期中平均残高は、前年対比25億円減少し939億円となりました。

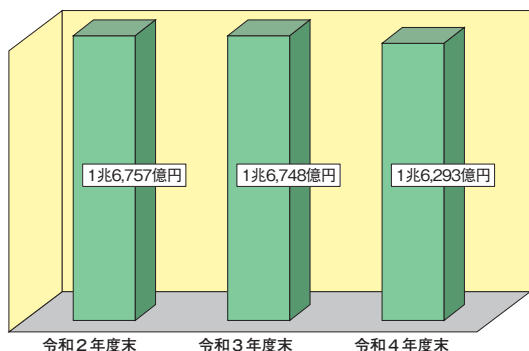
有価証券残高は、前年対比138億円減少し6,086億円となり、期中平均残高は、前年対比277億円増加し6,064億円となりました。

事業収支では、経常収益は181億5千万円、経常費用は138億8千3百万円となりました。この結果、経常利益は、前年対比4億8千3百万円減少し42億6千6百万円となりました。また、当期剰余金は、前年対比3億4千5百万円減少し37億3千7百万円となりました。

資金調達および資金供給の状況

信連の資金調達の状況

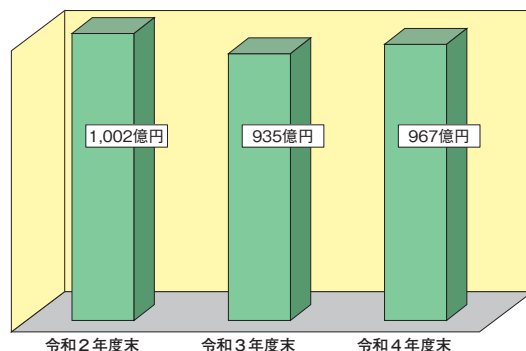
信連貯金等残高の推移



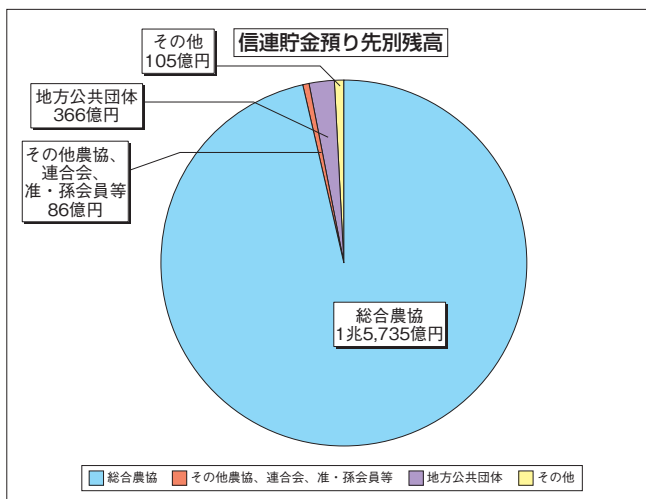
当会の貯金等の残高は、令和5年3月末現在 1兆6,293億円となり、前年対比454億円の減少となりました。

信連の貸出金の状況

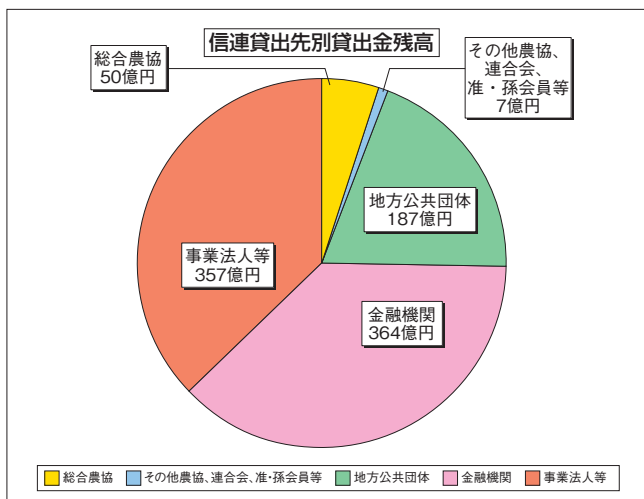
信連貸出金残高の推移



当会の貸出金の残高は、令和5年3月末現在967億円となり、前年対比32億円の増加となりました。



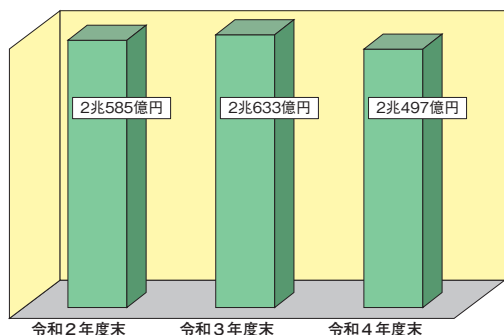
当会の資金調達は主として総合農協（JA）からの貯金によるものであります。



県内JAおよび当会にお預りしている貯金等を原資として、地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っております。

JAの資金調達の状況

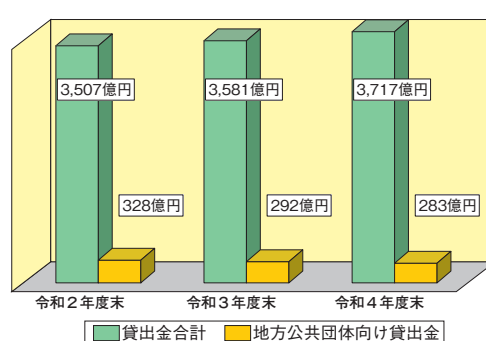
JAの貯金等残高の推移



JAが組合員をはじめ地域の皆さまからお預りしている貯金等の残高は、令和5年3月末現在 2兆497億円となり、前年対比136億円の減少となりました。

JAの貸出金の状況

JAの貸出金残高の推移



JAは、お預りしている貯金等を原資として、組合員・地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っております。令和5年3月末現在の貸出金残高は3,717億円、うち地方公共団体向け貸出金は283億円であります。